

令和3年度

# シラバース



3 学 年

北海道おといねっふ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語表現	学年	3学年
教材	教科書	国語表現 改訂版		単位数	4
	副教材	パスポート国語必携		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 小テストを行う他、課題の提出があります。				
	2 グループ学習などを通じた言語活動で国語力を育てる他、国語常識の基礎を学習します。				
	3 相互作品鑑賞・添削をしたり、公募コンクールに応募します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○書いて伝える ○メディアを駆使する	・国語表現の学習について ・整った文章を書く ・通信文を書き分ける	学習規律の徹底
	5	○自己PRと面接 ○表現を楽しむ	・志望動機をまとめよう ・詩歌を楽しむ	
		○声とコミュニケーション ○書いて伝える ○小論文・レポート入門 ○表現を楽しむ	・リーダーズシアターを開こう ・わかりやすい文を書く ・小論文とは何か ・資料を読み取って書く ・魅力的なポスターを作ろう	[中間考查] ノート提出
	6			
	7	○小論文・レポート入門	・発想を広げて書く	
	8	○表現を楽しむ ○声とコミュニケーション	・言葉で遊ぶ ・ショートスピーチをしよう	
	9	○会話・議論・発表	・プレゼンテーションの工夫	[期末考查] ノート提出
前期 目標				
後	10	○メディアを駆使する	・メディアと情報 ・発想を広げて書く	
	11	○会話・議論・発表 ○表現を楽しむ	・議論して結論を出す ・演説合戦に挑戦	
	12	○小論文・レポート入門	・論文を書くために	
	1	○小論文・レポート入門	・論文を書くために	
	2			
	3			
後期 目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考查・小テストの成績、課題の内容や提出状況。</li> <li>・グループワークなど言語活動に積極的に参加しているか。</li> <li>・国語科の観点別学習状況の評価の4観点に立ち総合的に評価します。</li> </ul>		
評価の 観点	【関意態】	国語や言語文化に関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか。	25%
	【表現】	自分の考えを論理的に述べたり、相手の考えを尊重し話し合っているか。	25%
	【理解】	自分の考えを深め、目的や場面に応じた文体など表現を工夫しているか。	25%
	【知識】	表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。	25%

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	学年	3 学年
教材	教科書	改訂版 世界の歴史A (山川出版)		単位数	2
	副教材	詳説 世界史図録 第2版		履修区分	共通
学習の目標	1 世界の歴史の基本的事項を、当時の時代背景や日本の歴史と関連づけて理解します。				
	2 知識だけではなく、歴史に対する多面的・多角的な視点を養います。				
	3 資料を読解・解釈し、それを思考・判断・表現する力を高めます。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に17・18世紀以前の、後期はそれ以降の歴史を学びます。				
	2 レポートやグループ活動を通し、思考力・判断力・表現力を高めます。				
	3 ワーク提出・小テスト・定期考査を通し、学習内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等	
前	4	○オリエンテーション ○世界の諸文明	・東アジアの文明	※考査毎にワーク・ファイルを提出します。	
	5		・南アジアの文明	・レポート	
	6		・西アジアの文明 ・東南アジアの文明	・中間考査 ・ファイル提出	
	7		・ヨーロッパの文明	・レポート	
	8	○世界の一体化のはじまり	・明・清王朝の東アジア ・大航海時代、ルネサンス、宗教改革 ・絶対王政と啓蒙専制君主		
	9	○近代の世界	・ヨーロッパの主権国家と太平洋世界 ・革命の時代へ	・期末考査 ・ファイル提出	
前期目標					
後	10	○現代の始まりと帝国主義	・帝国主義の国際対立 ・植民地・従属国での民衆の抵抗アジア・アフリカの従属下		
	11		・東アジアと日本の帝国主義下 ・日露戦争と韓国併合 ・辛亥革命	・中間考査 ・ファイル提出	
	12	○二つの世界大戦	・第一次世界大戦 ・ロシア革命とワシントン体制 ・世界恐慌と第二次世界大戦	・レポート	
	1	○平和と冷戦	・冷戦の開始 ・冷戦の激化と核戦争の危機 ・現代世界と日本	・学年末考査	
	2	家庭学習期間			
	3				
後期目標					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査・小テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートの内容、グループワークへの取り組み方等で総合的に評価します。</li> <li>地理歴史科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>		
評価の観点	【関意態】	歴史に対する関心の高さ、授業に取り組む姿勢(授業態度・提出物)。	20%
	【思判表】	歴史事象に対する多面的・多角的な視点を持つことができるか(定期考査・小テスト・授業プリント)。	25%
	【資料】	適切に資料を取捨選択し、これを根拠に表現できるか(定期考査・小テスト・レポート・授業プリント)。	25%
	【知理】	世界史の基本的事項を身につけているか(定期考査・小テスト)。	30%

教科名	数学		科目名	数学II	学年	3 学年
教材	教科書	改訂版 新 高校の数学II			単位数	3
	副教材	改訂版 基本と演習テーマ 数学II (数研出版)			履修区分	共通
学習の目標	1 計算をするための基本的な考え方や、新たな概念への理解を深める。					
	2 式や関数を事象の考察に活用できるようにする。					
	3 微分・積分に関する性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。					
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、式の計算、性質、複素数平面について学ぶ					
	2 後期は教科書の内容を中心に、三角関数、微分、積分について学ぶ					
	3 毎時課題を課し、学習習慣を確立しつつ理解を深める。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学IIの学習について</li> <li>展開・因数分解・分数式</li> <li>複素数と2次方程式</li> </ul>	*年間を通して小テストを行っていく
	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>整式の割り算</li> <li>因数定理と高次方程式</li> </ul>	
	6	2章：図形と方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の方程式</li> <li>直線との関係</li> <li>円、円と直線</li> </ul>	・中間調査
	7			
	8	第3章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数の拡張</li> <li>度数と弧度</li> </ul>	
	9	2章：整数の性質	関数のグラフ 加法定理	・期末調査
前期目標				
後	10	第5章 微分・積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の合成</li> <li>微分係数と接線</li> <li>導関数の性質</li> </ul>	
	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>微分と接線</li> </ul>	・中間調査
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の増減とグラフ</li> <li>関数の極大極小</li> <li>不定積分と定積分</li> </ul>	
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>積分の性質</li> <li>定積分と面積</li> </ul>	・学年末調査
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・定期調査、小テストの成績、宿題、日常の授業への参加態度等で評価する。		
評価の観点	【関・意・態】	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしているか。	20 %
	【数学的見方】	事象を数学的に考察しようしたり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりしているか。	30 %
	【数学的技能】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。	30 %
	【知・理】	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけているか。	20 %

教科名	理科	科目名	地学基礎	学年	3
教材	教科書	地学基礎		単位数	2
	副教材	改訂版 リードLightノート 地学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。				
	2 観察・実験を通して、地学的に探究する能力と態度を身につける。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、地学についての基本的な原理や法則を理解します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	第1編 惑星としての地球	・太陽系の中の地球 ・地球の形と大きさ ・地球の構造	
	5	第6編 宇宙の構成	・太陽と恒星 ・宇宙のすがた	・小テスト
	6			・中間考査 ・ノートファイル提出
	7	第4編 移り変わる地球	・地層の形成	
	8		・古生物の変遷と地球環境	
	9	第2編 活動する地球	・プレートの運動とそれに伴う現象	・期末考査 ・ノートファイル提出
前期目標				
後	10		・火山 ・地震と地殻変動	・小テスト
	11	第3編 大気と海洋	・地球の熱収支 ・大気と海水の運動	・中間考査 ・ノートファイル提出
	12	第5編 地球の環境	・環境と人間	
	1		・日本の自然環境	
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。</li> <li>理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>			
評価の観点	【関意態】	宿題、提出物、レポートの提出状況。ノートファイルの整理。	30%	
	【表現】	実験レポート、プレゼンテーションの内容。授業プリントの内容。定期考査。	20%	
	【技能】	実験・観察レポート。定期考査。	15%	
	【知識】	定期考査・小テスト。授業プリントの内容。	35%	

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	3 学年
教材	教科書	現代保健体育		単位数	3
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 3年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○体力テスト ○体づくり運動 ○体育理論	・体力診断テスト ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・第1回シャトルラン ・班づくりと準備体操づくり	
	5	○器械運動（選択）	・マット運動と跳び箱運動のいずれかを選択し、技能の向上を目指します。	・発表会の実施	
	6	○球技 ○野外活動	・ソフトボール ・ソフトボール	・前期中間考査	
	7	○球技	(捕、投、打の基本技能を習得し、ゲームを楽しみます。)	・ルールと審判法の習得	
	8	○水泳	・平泳ぎの習得 (大きなストロークで泳ぐ)		
	9	○陸上運動 ○体力テスト	・長距離走 (トレッキング、ウォーキングジョギング)	・強歩記録会の実施 ・第2回シャトルラン	
	前期目標				
	後	10	○球技 ○体育理論	・バスケットボールとバレーボール (チームで作戦を立て、協力し攻守に取り組みます。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
		11			・後期中間考査
12					
1		○スキー	・安全に留意し、マナーを守りスキーを楽しみます。	・技能検査	
2					
3					
後期目標					

評価方法	実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。		
評価の観点	【関意態】	・運動やスポーツに、積極的に取り組んでいるか。	20%
	【思判】	・安全の確保に努め、仲間と協力して運動に取り組んでいるか。	10%
	【知理】	・ルールや審判法について理解しているか。	10%
	【技能】	・個々の基礎体力や各種運動技能が向上しているか。	60%

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	3 学年
教材	教科書	Vivid English Communication II NEW EDITION(第一学習社)		単位数	4
	副教材	①フレーズで英単語3000 ②Real life Listening2		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分について、やさしい英語で読み手に伝わるように書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	オリエンテーション プレゼンテーション 【Hiroshima War & Peace】	・授業の進め方、学習の方法について ・広島への見学旅行にむけて、原爆の悲惨さ 戦争の歴史を理解し、見学地を発表する。	・小テスト ・プリント	
	5	Lesson1 Pictograms — Useful Signs on Streets	標識について学ぶ。 進行形・受け身 / S+V+C(=現在分詞・過去分詞) / seem to ~	・小テスト ・プリント	
		Lesson2 Fun with Pakkun	バックンについて学ぶ It is ... (for A) to ~ / S+V+it+C+to ~ / All you have to do is (to) ~	・中間考查 ・ファイル提出	
	7	Lesson3 Origami Is Not Just a Piece of Paper!	折り紙について学ぶ It is+形容詞+that-節 / S+V+it+C+that-節 / S+V+O+O(=名詞節)	・小テスト ・プリント	
		Lesson4 Numbers Talk	数字と文化について学ぶ。 関係代名詞の制限用法 / 関係代名詞の非制限用 法 / 完了形 / 完了形(受け身)	・小テスト ・プリント	
	9	Lesson5 The Doctor in the Stomach	内視鏡についてまなぶ 群動詞(受け身) / 進行形(受け身) / 関係副詞 の制限用法 / 関係副詞の非制限用法	・期末考查 ・ファイル提出	
	前期 目標	速読力や精読力を高める。(Inputの語彙力、文法力) リスニング、ペアワークを通じ、表現に必要な語彙を定着させる(リスニング力、スピーキング力) 小テストを通じて、Outputの単語力を伸ばす			
	後	10	Lesson6 Nature for the Next Generation	世界遺産について学ぶ。 関係代名詞の制限用法 / 関係代名詞の非制限用 法 / 完了形 / 完了形(受け身)	・小テスト ・プリント
		11	Lesson7 A Young Man in the Sea Who Made a Change	時や理由を表す副詞節 / 分詞構文(過去分詞) / 関係代名詞…前置詞 / 前置詞+関係代名詞	・小テスト ・プリント ・中間考查
12		映画作成&映画発表	映画を英語で作成する。	●スピーキングテスト	
1		その他			
2		週1回、英語フレーズを書く小テスト			
後期 目標	高校で学習した英語を駆使し、映画作成に生かす。				

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考查・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。		
評価の 観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうとしている。	10%
	【表現】	話し合い・意見の交換ができ、情報や考え等を簡潔に書くことができる。	40%
	【理解】	聞いたり読んだりして理解し、概要や要点をとらえたりすることができる。	40%
	【知識】	言語やその運用・文化背景についての知識を理解し、身に付いている。	10%

教科名	美術	科目名	素描	学年	3
教材	教科書			単位数	1
		なし		履修区分	工芸選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。				
	2 自他の作品を鑑賞することで多様な視点から感性を磨き、表現の相違や共通性などを考察し、美術文化の発展と創造に寄与する態度、理解を育てる。				
学習の進め方	1 造形表現の基礎である素描を行うことで、観察力や表現の技術を身に付ける。				
	2 様々な素材のモチーフを描き、形態の把握の仕方や陰影の付け方などを学ぶ。				
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 基礎のおさらい		
	5	組モチーフの単純形体・静物デッサン① 講評		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを持ちます。</li> <li>・鉛筆の削り方や持ち方、表現の幅広さを学びます。</li> <li>・木炭や鉛筆など、素材による表現の違いについて学びます。</li> <li>・基本的な道具については、はじめは学校で用意したものを使用し、必要に応じて各自で追加していきます。</li> <li>・デッサンの基本姿勢を身に付けながら木炭の使い方を学びます。</li> <li>・アウトラインだけで描かないよう注意します。</li> <li>・トーンの幅を広げる。</li> <li>・奥行き、立体感を捉える。</li> <li>・質感の描き分けや遠近に留意し空間を捉える。</li> </ul>
	6	静物デッサン② 細密デッサン、スケッチ 講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価と学習方法について</li> <li>・様々な形体の把握方法</li> <li>・様々な表現技法について</li> <li>・制作時の諸注意</li> <li>・対象への観察について</li> <li>・表現材料</li> <li>・構成</li> </ul>	
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・描線について</li> <li>・形体・構造の把握について</li> <li>・明暗について</li> <li>・制作時間の使い方、進め方</li> <li>・空間について</li> <li>・量感について</li> </ul>	
	8	デッサン応用 静物デッサン③、クロッキー		
	9	(人物クロッキー) ※進捗状況により変更有 反省		

評価方法	授業中の取り組みの様子、提出物をもとに総合的に評価する。		
評価の観点	【関・意・態】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。	30%
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。	20%
	【技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。	30%
	【鑑賞】	作品や対象物を見て良さや美しさを感じ取り、作品や言葉で表現し理解することができるか。	20%



教科名	美術		科目名	素描	学年	3 学年
教材	教科書	なし			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。					
	2 デッサンや鑑賞を通して、感性や美意識を高めるとともに、自己の在り方生き方を見つめ、美術文化を尊重する態度、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 造形表現の基礎であるデッサンを繰り返し行い、技術を身に付ける。					
	2 様々な素材を組み合わせたモチーフをイメージの違いや空間をとらえながら描くことで、表現の方法を学び追及する。					
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前 期	4	○オリエンテーション ○観ること・描くこと ○線の表現力、トーンとタッチ ○幾何形体 GW中の課題（見て描く）	①指導計画と評価を理解する。 ②授業の約束を確認する。 ③道具の扱い等のおさらい。 ①線の種類や意味、描き方の基本を確認する。 ①静物もしくは手を課題とする。	・学習の見通しを持つ。 ・昨年度購入した道具を引き続き使用する。 ・線の意味と役割について理解し、表現に活かせるよう、反復が必要でず。
	5	○幾何形体と静物の構成（陰影（影描法））	①単純な形態と静物の組み合わせにより的確に描く能力を身につける。	・形は粘り強く正確にとること。 ・面と空間を意識して描く。
	6	○面で描く（対象物の構造） ○空間と関係（包絡線、空間） ○色とバールール（統一感・マチエール）	①複雑な形態を単純な形に置き換えて描く練習を行います。 ①関係の作り方（大きさ、濃淡、重なり）の基本について、制作課題と講義により学ぶ。	・単純な形が描けないと、複雑な形は描けない為、各自復習をして、基本的な描写力を高めること。 ・空間（関係）の表現は、全体のバランスを壊さないこと。
	7	○構図と印象（パースペクティブ） 夏季休暇中の課題（構想デッサン）	①構図と印象について理解を深める。 ①別途指示内容を課題とする。	・適宜、制作している作品を相互鑑賞し、意見交流を行います。自分の癖や表現上の個性に気づき、修正の必要な点、伸ばしていく点に少しでも気づけるよう、他者意見に耳を傾けられるようにしましょう。
	8	○表現材料（木炭と鉛筆） ○人物画（骨格）	①それぞれの特徴について、講義、実習形式で学ぶ。 ①上記の応用。	
	9	○主題（何を見つめ、描き、伝えるか） 個別テーマ課題	①学んだことを活かし、課題作品の制作を通して総合的に学習する。	

評価方法	授業中の取り組みの様子と課題の提出、技術力等により総合的に評価する。		
評価の観点	【関・意・態】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。	25%
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。	25%
	【技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。	30%
	【鑑賞】	作品や対象物を見て良さや美しさを感じ取り、作品や言葉で表現し、美術文化を理解することができるか。	20%

教科名	芸術 (美術)	科目名	美術研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	美術選択
学習の目標	1 様々な表現や技法について学び、独自の表現力を身につける。				
	2 絵画の制作活動や鑑賞を通して、自己の視点と他者の視点を比較し、感性を高める。				
	3 ポートフォリオ作成をとおして自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。				
学習の進め方	1 F100号程度の絵画を制作し、自己の表現について考え、主題を設定します。				
	2 名作や自他の作品を鑑賞し、表現の特質、お互いの良さについて学びます。				
	3 ポートフォリオを作成し、自身の制作を振り返り、自己の表現について発表します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○構想	・1年間の活動について ・ポートフォリオについて ・資料収集、モチーフ取材 ・表現の学習	・資料はインターネットや出版物ばかりに頼るのではなく、できるだけ自分の力で集めること。 ・自分の表現に適した画材や技法を選択する。
	5	○習作の制作	・様々な画材の特徴について学ぶ	・習作でしっかり主題や技法を練ること。
	6	○習作発表	・主題設定、技法の検討 ・習作(実寸サイズの紙または小パネルに制作)	・キャンバスの組み立て、キャンバス張りは一人で行わずお互い協力して行うこと。水張りも同様。
	7	○本制作	・習作を発表・鑑賞 ・キャンバス組み立て	
	8	○本制作	・下描き ・下地づくり ・彩色	・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて計画する。
	9	○本制作	・ワークシートを活用し、今後の見通しを立てる。	
	前期目標			
後	10	○本制作 (中間発表)	・ポートフォリオについて ・再検討 ・修正	・制作の途中経過や今後の制作について発表、及び鑑賞を行う。
	11	○本制作		
	12	○仕上げ ○卒業制作発表準備	・細部描込み ・微調整 ・額つけ ・ポートフォリオ提出	・必要な場合は額を制作する。
	1	○卒業制作発表	・卒業制作発表準備 ・まとめ	・卒業制作発表及び鑑賞。 ・1年間の制作を振り返る。
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	プリント提出状況、課題に対する創造力、技術力、授業への意欲・態度、計画性、発表内容等により総合的に評価します。		
評価の観点	【関・意・態】	自己の制作に向き合い、計画的に取り組むことができたか。	25%
	【発想・構想】	適切な主題を設定し、実現に向けた構想をねることができたか。	25%
	【技能】	技法や画材の特性を理解し、設定した課題に効果的な表現ができたか。	30%
	【鑑賞】	自他の表現の意図や工夫を感じ取り、味わうことができたか。	20%

教科名	工芸	科目名	課題研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	6
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 工芸科目を通して学んだ技術を応用し、創造的に発展させた作品制作の力を育てます。				
	2 制作の過程を通し、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き、豊かな人間性を養います。				
学習の進め方	1 1年間をとおした制作の計画を立てます。題材は個々が設定し、工芸制作への知識と理解を深めます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの工芸科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 制作計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の課題の進め方</li> <li>制作に向けた試作と計画</li> <li>構想、設計、図面の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作課題をどのような手段で達成するかを考える。</li> <li>面談</li> </ul>
	5	制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺模型、プロトタイプ</li> <li>再検討、実制作</li> <li>木材移動、棧積み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作の段取りを把握する。</li> <li>制作物、図面完成</li> </ul>
	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート・ポートフォリオの制作開始</li> </ul>	
	7			
	8			
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>進め方の再検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。</li> </ul>
前期目標	早期に制作物の決定、製材・加工に入るよう、心がけよう。 見通しを持った制作を心がけ、自ら取り組める作業量を見極められるようにしよう。			
後	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>中間段階の状況確認(ワークシート)</li> <li>作品の組み立て開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担当者と面談し、制作の進捗状況把握と制作計画の調整を行う。</li> </ul>
	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>図面の修正と完成</li> <li>素地調整と塗装</li> <li>委員会の立ち上げ</li> </ul>	※ガラス等の発注
	12	制作のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品、図面の完成と提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をふりかえることで成果を確認する。</li> </ul>
	1	資料の整理 卒業制作発表 ※先輩の声を聞く会	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート、ポートフォリオの提出</li> <li>発表のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※塗装を含めて完成</li> <li>他者との学びを共有する。</li> </ul>
	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃</li> </ul>
	3			
後期目標	他者と協同して作業進捗の遅れが出ぬよう、前倒しで制作を進めよう。 制作をとおして学んだことや身につけたことなどをまとめ、発表時に伝えられるようにしよう。			

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。	
評価の観点	【関・意・態】	制作課題の設定と計画をもとに制作を進めることができたか。
	【発想・構想】	制作課題を自らの意図と繋がるように制作を考えていくことができたか。
	【創造的技術】	制作課題に対しての技法、表現を深めていけたか。
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか。

教科名	工芸	科目名	工芸研究	学年	3
教材	教科書			単位数	4
				履修区分	工芸
学習の目標	1 選択工芸科目を含め、学んだ技術を総合的に応用、創造的な作品の制作を目標とします				
	2 制作の過程をとおして、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。				
	3 選択教科として密度のある専門性を高めた作品の制作を目指します。				
学習の進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材は個々が設定し、構想と基本的な設計を相談しながら進めていきます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの選択科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	オリエンテーション テーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の課題の進め方</li> <li>テーマの設定と計画</li> <li>構想、設計</li> </ul>	試作	
	5	制作 中間発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺模型、プロトタイプ</li> <li>図面</li> <li>プレゼンテーションの準備</li> <li>プレゼンテーション、再検討</li> <li>実制作</li> </ul>	↓ 加工 ↓ 仕上げ ↓ 完成	
	6		木取り		
	7		製材		
	8				
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマと制作についての発表</li> <li>進め方の再検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する</li> </ul>
前期目標					
後	10				
	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成について</li> </ul>		
	12	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の完成と提出</li> </ul>	完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をまとめることで成果を確認する</li> <li>他者との学びを共有する</li> </ul>
	1	資料の整理 卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめの制作と提出</li> <li>キャプションの制作と提出</li> </ul>		
	2				
	3				
後期目標					

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【関・意・態】	自ら設定したテーマと計画をもとに積極的に制作を進めることができる	20%
	【発想・構想】	制作の手順や方法を考えていくことができる	25%
	【創造的技能】	テーマに対しての技法、表現を深め、形にすることができる	35%
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができる	20%